

SNS タイアップ広報・第 7 弾 塩ビ配管とリサイクル

— 6/30 公開 キッチンの下にある『見慣れた管』の意外な実力 —

塩ビ工業・環境協会(VEC)は、世間一般の方々に向け、塩ビについて「正しく理解」してもらうことを目的にした活動を展開しています。その一環として塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)による SNS タイアップ広報・第 7 弾を 6/30 に公開しましたのでご紹介いたします。

(タイトル:「キッチンの下にある『見慣れた管』の意外な実力」)

この第 7 弾は、公開後 5 日間で約 20 万人に読んでいただきました。なお、第 4 弾までは VEC として展開してきましたが、第 5 弾以降は JPEC の活動として実施しています。

第 7 弾は、「塩ビ配管とリサイクル」です。普段、何気なく使用しているキッチンのシンク下にある排水管について考えたことはあるでしょうか。今回は、「この管は何でできているの?」という素朴な疑問から、ある小学生が、排水管に使われている塩ビ(PVC)の特徴を調べて理解していく様子を描いています。

塩ビ配管にはいくつかの特徴があります。

- ① 水や薬品に強い
- ② 腐食しにくい
- ③ 長期間にわたり性能を維持できる
- ④ 高い水密性があり、漏水リスクを抑えられる

塩ビ配管は、これらの特徴によって私たちの上下水道インフラを支えています。また、長い年月を経ても物性低下が小さく、約 50 年間もつと言われています。

(『下水道用塩ビ管』は、塩化ビニル管・継手協会により、100 年相当の耐久性が検証されています。なお、「100 年相当の耐久性」については、塩化ビニル管・継手協会が実施した長期内圧クリープ試験等のデータに基づき、一定の条件下における期待寿命として算出されたもので、実際の使用環境や施工状況により異なります。)

参考 <https://www.ppfa.gr.jp/pvc/features/product02/>

また、廃塩ビ管を再利用した「リサイクル三層管」もあり、環境負荷の低減に貢献しています。これは、管の真ん中の層にリサイクル素材(廃塩ビ管由来)を使い、その内側と外側を新しい素材で挟み込むユニークな構造をしています。主に屋外排水設備の排水管、下水道の取付け管などに使用されています。

あまり目にする事ののないこれらの排水管ですが、実は暮らしの安全や環境保全に貢献していることがわかる記事となっています。全体の記事は、このあとに添付しています。また、以下の URL からでもご覧いただけます。 <https://grapee.jp/2260751>



SNS は今や社会生活において欠かせない情報伝達手段になっています。総務省が公表しているデータ¹⁾に基づきメディア別の利用時間の推移について見てみました。図1は、直近10年間のメディア別利用時間の推移です。インターネット(ネット)の利用時間は、新型コロナウ



図1 メディア利用時間の推移 (平日、13～69歳平均)

イルス感染症が流行した時期に大きく増加し、2021年には、テレビの視聴時間を上回るようになりました。情報収集やコミュニケーションにおけるインターネットの重要性は年々高まってきているといえます。

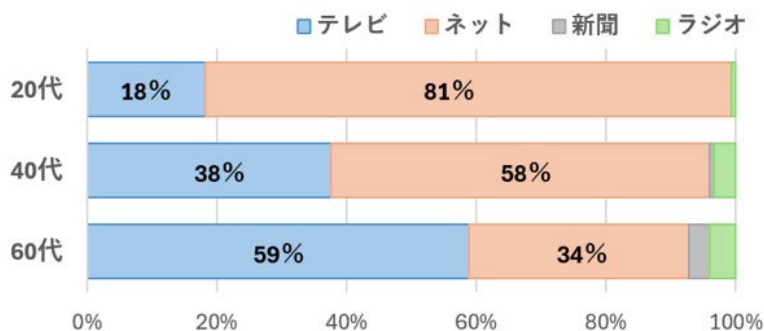


図2 メディア利用率の世代比較

図2は、2024年における20代、40代、60代のメディア利用率を示しています。20代ではネットの利用率が80%を超えています。最近の若い世代の話を聞くと、自宅にはテレビを置かず、必要な情報や見たいコンテンツだけをスマートフォンで視聴している人が増えているとのことです。

インターネットは、幅広い世代で主要な影響力をもつメディアであり、VEC、JPECでは、今後もこのようなメディア環境の変化を踏まえて情報提供力を強化してまいります。

¹⁾令和6年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書(概要)
(令和7年、総務省情報通信政策研究所)

以 上